

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	おおすみ児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 22日		～ 2026年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	56	(回答者数) 49
○従業者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 1月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 19日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性に基づく支援の実施体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門士が作成する専門的支援計画に基づいた支援を実施している。</li> <li>・必要に応じて言語聴覚士、作業療法士による個別支援を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回のミーティングや毎日の振り返りで、成功事例の共有と困難ケースの支援方法を検討する。</li> <li>・職員研修の充実</li> </ul>
2	子どもの変化に気づけるきめ細やかな支援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数体制のため個別対応がしやすい</li> <li>・子どもの小さな成長や変化を具体的に伝えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者にも関わり方の具体例を提示する。</li> <li>・家庭でできる支援を提案する。</li> </ul>
3	送迎体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前確認や情報共有を徹底している。</li> <li>・家庭状況や保護者の事情に配慮した対応をしている。</li> <li>・送迎時間や場所の変更等に対して柔軟に対応している。</li> </ul>	R8年度から送迎範囲を狭めることで、長時間の乗車による疲労を防ぎ、支援前後のコンディション維持につなげる。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員体制の不安定さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退職者の急増により人員が十分とはいえない状況がある。</li> <li>・経験年数や専門性にばらつきがある。</li> <li>・新人育成の仕組みが十分に体系化されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R8年度に向け職員補充が決まっている。</li> <li>・定着支援の強化が課題。</li> </ul>
2	事業所外活動の機会が限定的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイエースとキャラバンを運転可能な職員が限られている。</li> <li>・運転業務が特定職員に集中することがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転可能職員を計画的に増やす。(現在1名練習中)</li> </ul>
3	支援内容の統一が十分に図られていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員ごとに支援方法にばらつきがある</li> <li>・支援内容に関する情報共有が不足している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画書の内容を全職員へ周知徹底する。</li> <li>・定期的なミーティングを充実させ、支援方針の共有と確認を行う。</li> </ul>